



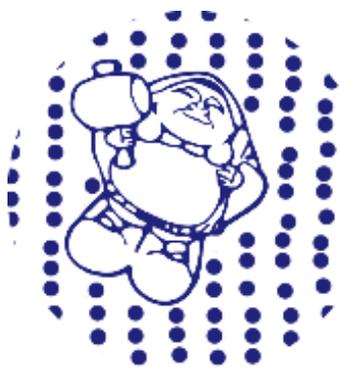
## 御殿堰の『待つ』

御殿堰蔵前にある奥山清行氏がデザインしたベンチをモチーフに。  
「人」を待つ場所。  
「時」の移ろいをゆったりと待つ場所。  
『御殿堰の待つ』と言われるこのベンチには、  
鳥が運んできたのか松の木が生えてきました。

## Rain Chain

400年前からまちの移ろいを眺め続けてきた御殿堰。  
水の町屋にある「RainChain(鎖樋)」

屋根からRainChainを伝って、現代の雨や時の流れ  
を歴史ある御殿堰に流れ込んでいます。  
時の流れ・水の流れは循環しているのですね。



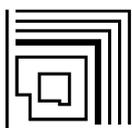
## 御殿堰大黒天 豆絞り

明治初期の英国人女性旅行家イザベラ・バードの著書  
「日本奥地気候」には、日本の商人や農夫がいつも大黒を大事にし、  
神前には供え物や香が絶えない様子が描かれています。  
大黒天は七福神の一柱として知られ、食物・財福を司る神とされて  
います。「御殿堰大黒」は、山形市の伝統工芸である「山形鋳物」  
で造られています。

400年前から時の流れを見守り続けてきた御殿堰。

これらのモチーフは、水の町屋御殿堰で

現在の時の流れをそっと見つめています。



<http://gotenzeki.co.jp/>